

【 第6回熊本大学定例学長記者懇談会 】

日 時： 令和3年11月10日（水） 14：00～15：00（予定）

場 所： 本部棟1階 大会議室

本学出席者：熊本大学長 小川 久雄（カガリ ヒサオ）

理事・副学長（教育・学生支援担当） 宇佐川 毅（ウサガワ ツヨシ）

理事・副学長（研究・グローバル戦略担当） 大谷 順（オオタニ ジュン）

副学長（男女共同参画担当） 前田 ひとみ（マエダ ヒトミ）

先進軽金属材料国際研究機構長 河村 能人（カムラ ヨシヒト）

教育学部附属特別支援学校教諭 多田 肇（タダ ハジメ）

内 容：

1. 共同利用・共同研究拠点の認定について（資料1）
—軽金属材料共同研究拠点の新規認定について
2. 熊本大学の男女共同参画の取組について（資料2）
3. コロナ禍における教育の紹介（資料3）
・教育学部附属特別支援学校の取組み
～コロナ禍における児童生徒の学びと生活を支えた「附特遠隔教育推進プロジェクトチーム」～
4. その他

※新型コロナウイルス感染症の感染対策を徹底した上で開催いたします。

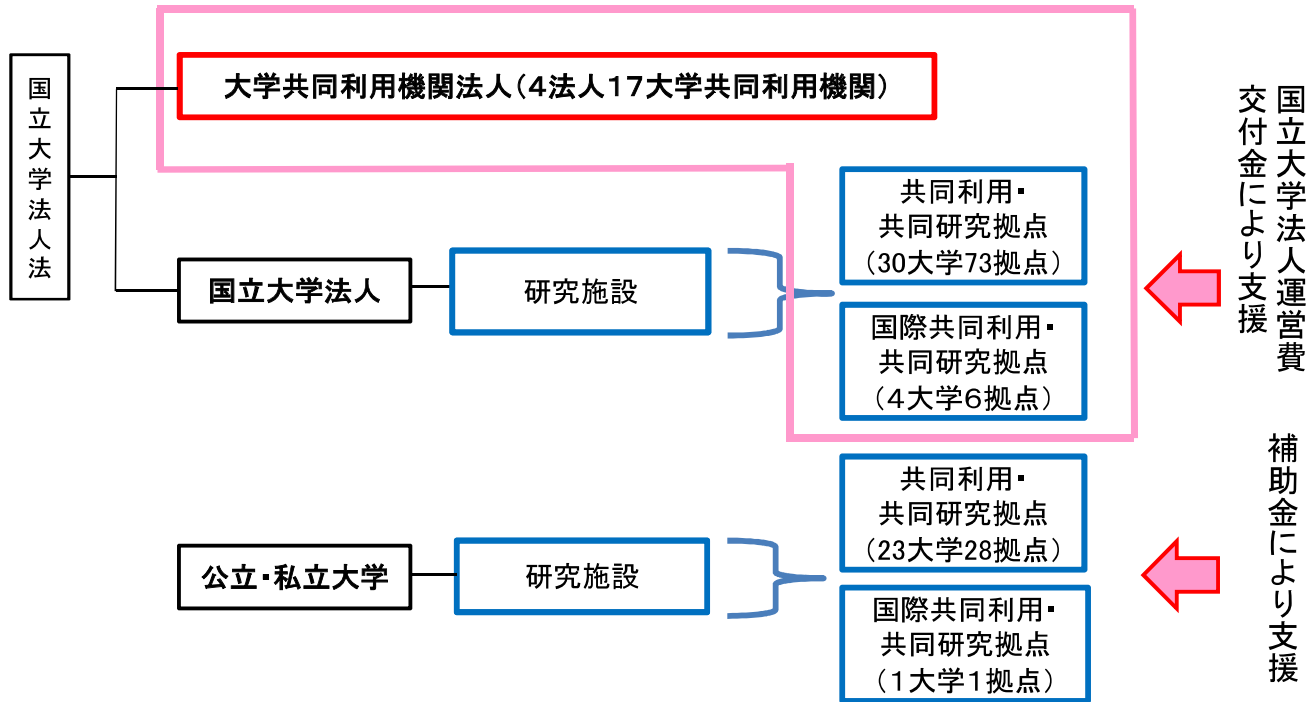
共同利用・共同研究体制の全体像

令和3年11月10日開催

熊本大学定例学長記者懇談会 資料1

共同利用・共同研究体制

個々の大学では整備できない大規模な施設・設備や、大量のデータ・貴重な資料等を提供しつつ、国内外の大学の枠を越えた共同研究を促進するシステム



1

国公立大学を通じた共同利用・共同研究拠点制度について

創設の趣旨等

- 個々の大学の枠を越えて、大型の研究設備や大量の資料・データ等を全国の研究者が共同利用し、共同研究を行う「共同利用・共同研究」のシステムは、我が国の学術研究の発展にこれまで大きく貢献。
- こうした共同利用・共同研究は、従来、国立大学の全国共同利用型の附置研究所や研究センター、大学共同利用機関等を中心に推進されてきたが、我が国全体の学術研究の更なる発展を図るには、国公立大学を問わず大学の研究ポテンシャルを活用して、研究者が共同で研究を行う体制を整備することが重要。
- このため、平成20年7月に国公立大学を通じたシステムとして、文部科学大臣による共同利用・共同研究拠点の認定制度を創設。

※学校教育法施行規則第143条の3

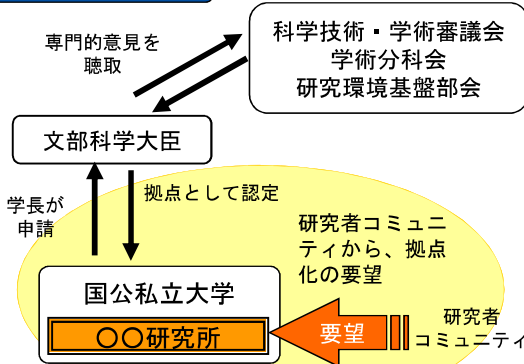
※共同利用・共同研究拠点の認定等に関する規程(平成20年文部科学省告示第133号)

本制度の創設



我が国の学術研究の基盤強化と新たな学術研究の展開

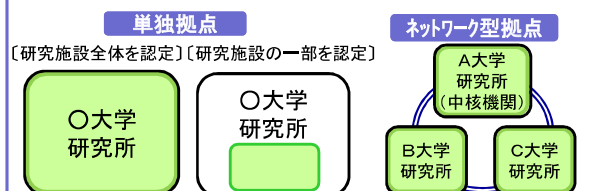
制度の概念



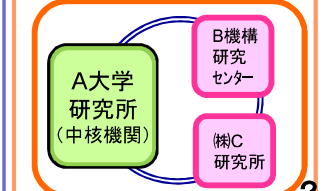
制度の特徴

- ・単独の研究施設のほか、複数の研究施設から構成されるネットワーク型の拠点も認定。
- ・認定対象外の研究施設(大学共同利用機関や国立研究開発法人等の研究施設)を「連携施設」と定義し、連携施設を含むネットワーク全体を「連携ネットワーク型拠点」として認定を可能とする制度改善を実施。
- ・国立大学の拠点の認定期間は中期目標期間。
- ・公立大学の拠点の認定期間は6年間。

基本的な類型



連携ネットワーク型拠点



2

共同利用・共同研究拠点一覧（令和4年度）

大学名	拠点数	順位
京都大学	11	1
東京大学	7	2
大阪大学	6	3
北海道大学	5	4
東北大学	4	5
筑波大学	4	5
名古屋大学	4	5
愛媛大学	3	8
九州大学	3	8
熊本大学	2	10
千葉大学	2	10
東京医科歯科大学	2	10
金沢大学	2	10
岡山大学	2	10
広島大学	2	10
長崎大学	2	10

その他 1拠点：11大学

全72拠点(27大学)が採択（継続と新規を含む）

熊本大学：

- ・ 発生医学の共同研究拠点(継続 S判定)
- ・ 軽金属材料共同研究拠点（新規）
富山大学との大学連携（新しい形の拠点）
代表：河村能人 教授



熊本大学
Kumamoto University

令和3年11月10日
熊本大学発表資料

先進軽金属材料国際研究機構（ILM）の 共同利用・共同研究拠点認定について

国立大学法人熊本大学

学 長

理事・副学長

先進軽金属材料国際研究機構長

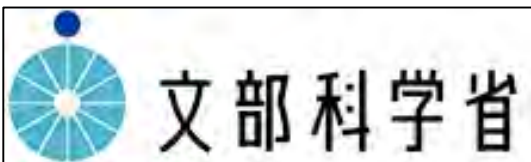
（先進マグネシウム国際研究センター長）

小川 久雄

大谷 順

河村 能人

「共同利用・共同研究拠点」の認定について



令和4年度からの共同利用・共同研究拠点及び国際共同利用・共同研究拠点の認定について（国立大学） 令和3年10月29日

https://www.mext.go.jp/a_menu/kyoten/1409443_00002.htm

➡ 科学技術・学術審議会の下に設置した作業部会及び専門委員会（※）において、書面評価及びヒアリング評価を実施し、この評価結果を踏まえて、「令和4年度からの共同利用・共同研究拠点一覧（国立大学が中核の拠点）」及び「令和4年度からの国際共同利用・共同研究拠点一覧（**国立大学が中核の拠点**）」のとおり、**計78拠点を認定**

➡ 令和4年度からの共同利用・共同研究拠点の**新規認定拠点 5 拠点**

軽金属材料共同研究拠点

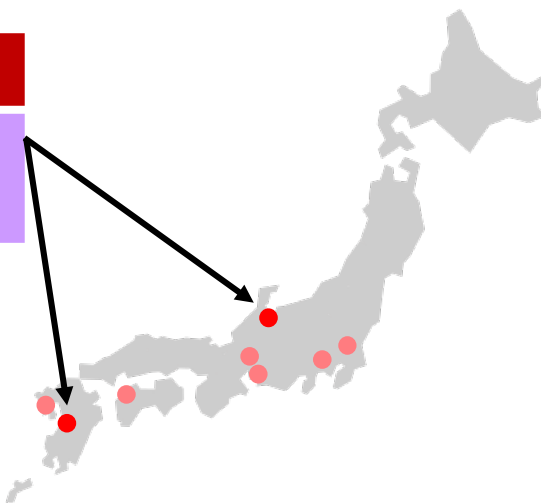
富山大学、熊本大学
(先進軽金属材料国際研究機構)

新興感染症制御研究拠点

長崎大学(高度感染症研究センター)

プロテオインタクトーム解析共同研究拠点

愛媛大学(プロテオサイエンスセンター)



人の活力・健康を増進するヒューマン・ハイ・パフォーマンス先端研究拠点

筑波大学(ヒューマン・ハイ・パフォーマンス先端研究センター)

糖鎖生命科学連携ネットワーク型拠点

名古屋大学、岐阜大学(糖鎖生命コア研究所【中核施設】)
創価大学(糖鎖生命システム融合研究所)
自然科学研究機構(生命創成探究センター【連携施設】)

※「科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会共同利用・共同研究拠点及び国際共同利用・共同研究拠点に関する作業部会」及び、同作業部会の下に設置した6つの専門委員会（理工学系（大型設備利用型）専門委員会、理工学系（共同研究型）専門委員会、医学・生物学系（医学系）専門委員会、医学・生物学系（生物学系）専門委員会、人文社会科学系専門委員会、異分野融合系専門委員会）において評価を実施

1. 共同利用・共同研究拠点名

軽金属材料共同研究拠点

【共同利用・共同研究拠点として認定する研究施設】
先進軽金属材料国際研究機構

2. 認定の有効期間

令和4年4月1日～令和10年3月31日（6年間）

3. 留意事項

熊本大学においてマグネシウム合金、富山大学においてアルミニウム合金に関する研究組織を有し、それぞれ卓越した研究者による多くの研究成果及び共同利用・共同研究の実績を有するとともに、両者の特色を生かし、チタン合金に対する人員を更に確保した上で、軽金属材料に関する共同利用・共同研究拠点の形成を目指していることは高く評価できる。

今後は、本拠点の形成によりマルチマテリアル化技術を含めた軽金属の技術革新の促進が期待されること、国際的な競争下で日本の立ち遅れが危惧される当該分野の発展に寄与することが期待されることから、両大学の一層密接な連携の下に、関連コミュニティの拡充や、地理的な課題や既存の役割分担を越えた共同利用・共同研究拠点としての強固な体制整備と運営に向けた、より具体的な方策の検討が期待される。

軽金属に関する共同利用・共同研究拠点の必要性

【軽金属】 比重が5以下の金属

マグネ(比重1.7)、アルミ(比重2.7)、チタン(比重4.5)の3つが主な軽金属(三大軽金属)

軽金属材料(マグネ・アルミ・チタン)の革新が大きな鍵

①先端技術の革新

(航空宇宙・モビリティ、バイオテクノロジー、環境・エネルギー、安心・安全、防災・減災)

②SDGsおよびSociety 5.0の達成



【世界各国の動向】

軽金属材料を戦略材料に位置付けて研究開発を精力的に進めている。



【我が国の政策における位置づけ】

(第5期科学技術基本計画、ナノテクノロジー・材料科学技術研究開発戦略、統合イノベーション戦略2019、マテリアル革新力強化のための政府戦略に向けて等)

①我が国が真に伸ばすべき重点技術領域

- 軽量・高強度材料
- 次世代バイオマテリアル
- マルチマテリアル化
- マテリアルの高度循環

②拠点形成の推進

- 重点技術を育成する拠点形成
- 大学等が連携して地域産業群の特徴を踏まえた拠点形成
- マテリアルの技術・人材などの情報・リソースを集積・活用・循環する拠点形成

【我が国】 軽金属材料研究に総合的に取り組んでいる研究機関の不在

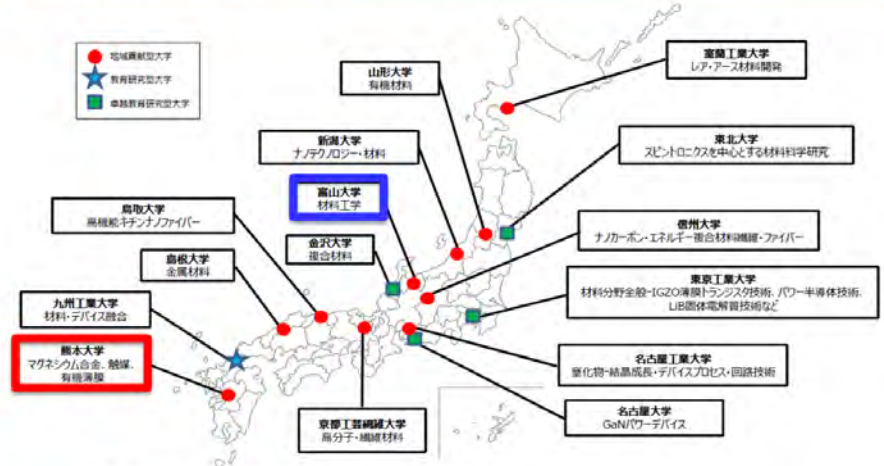
- ・ マグネ：熊本大学のみ
- ・ アルミ：富山大学のみ
- ・ チタン：不在

表 軽金属の国際会議での発表件数トップ10

順位	マグネシウム	アルミニウム	チタン
	出展： Mg国際会議(Mg2018)	出展： Al国際会議(ICAA16、2018)	出展： Ti国際会議(Ti2019)
1	ブルネル大学(イギリス)	ケベック・シクチミ大学(カナダ)	西北工業大学(中国)
2	ヘルムホルツ研究所(ドイツ)	ラヴァル大学(カナダ)	中国科学院金属研究所(中国)
3	カレル大学(チェコ共和国)	ノルウエー科学技術大学(ノルウエー)	西北有色金属研究院(中国)
4	熊本大学(日本)	ブルネル大学(イギリス)	ロレーヌ大学(フランス)
5	上海交通大学(中国)	ウオーターラー大学(カナダ)	ハルビン工業大学(中国)
6	重慶大学(中国)	重慶大学(中国)	シェフィールド大学(イギリス)
7	ハルビン工業大学(中国)	富山大学(日本)	トゥールーズ大学(フランス)
8	韓国生産技術研究院(韓国)	プリティッシュコロンビア大学(カナダ)	オハイオ州立大学(アメリカ)
9	中国科学院金属研究所(中国)	韓国生産技術研究院(韓国)	マンチェスター大学(イギリス)
10	アーヘン工科大学(ドイツ)	SINTEF(ノルウエー)	インペリアル・カレッジ・ロンドン(イギリス)

ポテンシャル：基礎⑥～マテリアルは全国の大学の強み

大学の得意分野としてマテリアル関連の研究を掲げている大学が多数存在する。また、このことは、我が国においてマテリアルを強化することが、地方創成に大きく貢献する可能性を持つことを示唆している。



【出典】 経済産業省「大学ファクトブック2019 国立大学」より文部科学省作成
 (注) 大学ファクトブック「大学の得意分野とその具体例」に「材料」もしくは「具体的な材料名」のキーワードが表記されている大学を抽出

材料分野で世界の最先端を走っている日本が軽金属分野で大きな後れを取る恐れがある。

我が国では軽金属材料を総合的に取扱う共同研究拠点が必要

世界に伍する総合的軽金属研究の国際拠点化

熊本大学・富山大学の連携による
先進軽金属材料国際研究機構 (ILM) の設置

熊本大学の強み (Mg合金)

- ・Mg研究の組織的取組み
全学組織のセンター設置(MRC)
- ・特徴的な固有技術
非平衡プロセス、単結晶物性、結晶塑性解析、マイクロ試験
- ・国内外のMg研究者ネットワーク保有
科研費「新学術領域研究」、軽金属学会研究部会など
- ・Mg産業界とのネットワーク保有
「高性能Mg合金創成加工研究会」

富山大学の強み (Al合金)

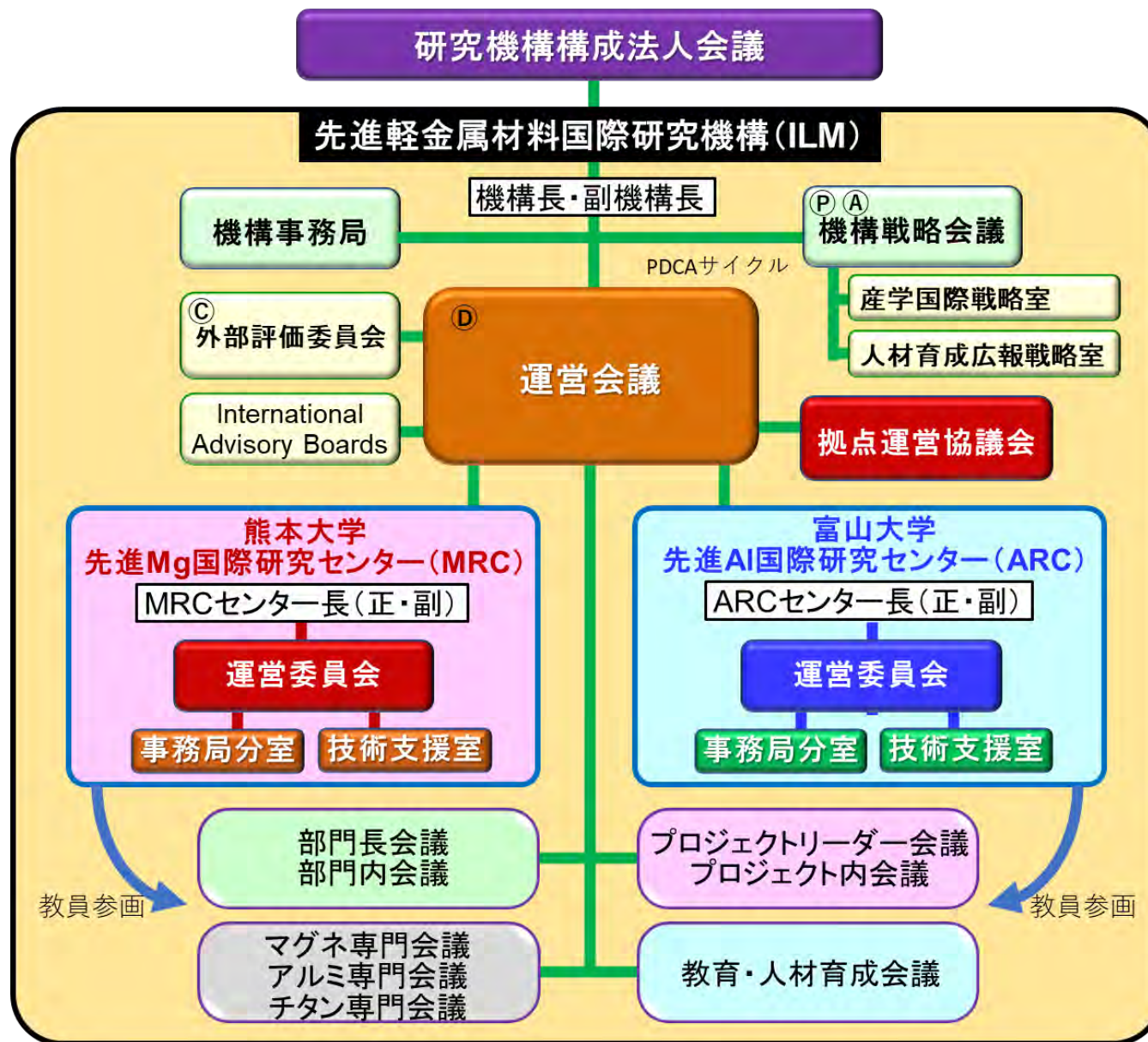
- ・Al研究の組織的取組み
全学組織のセンター設置(ARC)
- ・特徴的な固有技術
電子顕微鏡観察、ダイカスト、防食腐食
- ・国内外のAl研究者ネットワーク保有
軽金属学会研究部会
- ・Al産業界とのネットワーク保有
「とやまアルミコンソーシアム事業」

両大学の強みを統合することで限られた大学資源を有効に活用し、

- ① 相互補完によるマグネ研究拠点(MRC)の強化
- ② 相互補完によるアルミ研究拠点(ARC)の強化
- ③ 日本初のチタン研究拠点の構築
- ④ マルチマテリアル化の融合研究体制の構築

を図り、完結した材料研究サイクルを備えた「世界に伍する総合的軽金属国際研究教育拠点」を構築する

先進軽金属材料国際研究機構の組織と機能



中核的軽金属研究拠点としての特徴

拠点専用施設

- ・MRC研究棟と実験工場
- ・ARC研究施設と実験棟
- ・オープンラボスペース (800 m²)

拠点専用研究設備

- ・モノづくり設備群 (特殊設備多数)
- ・分析・評価・観察設備群 (特殊設備多数)
- ・2021年度整備のチタン専用設備群

完結材料研究サイクル体制

- ・幅広い研究分野に対応
- ・マグネ・アルミ・チタンの融合研究に対応
- ・ワンストップの技術・研究相談対応

独自の共通試料

- ・高品質の共通試料
- ・オーダーメイド特殊試料

卓越した保有技術

- ・材料設計技術
- ・材料製造技術
- ・一気通貫のモノづくり技術
- ・マルチスケール材料解析技術

卓越した研究実績・水準

- ・卓越した研究業績
- ・全国・国際・産学ネットワーク

利用者の幅広い要求に対応

公募型研究助成

(重点テーマ・自由テーマ)

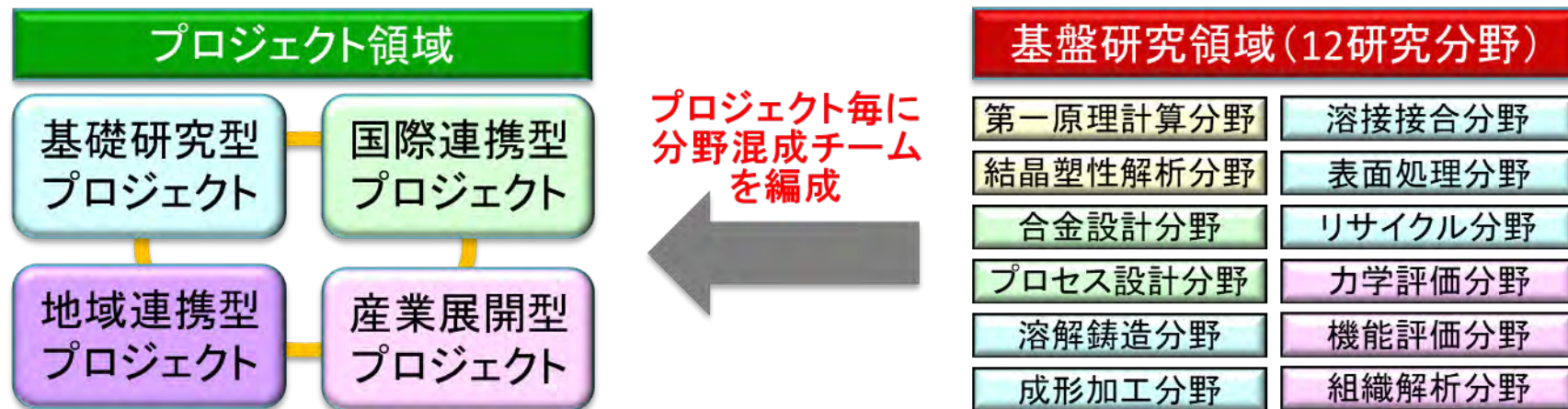
- ① 全国共同利用・共同研究助成
- ② 国際共同利用・共同研究助成
- ③ 共通試料提供・共同研究助成
- ④ 試料分析評価・共同研究助成

重点テーマ

- (1) 輸送機器開発
- (2) 生体材料開発
- (3) 橋梁・建築用材料開発
- (4) キンク強化



複数の協働プロジェクトを**企画・審議**した上で立ち上げ、**研究分野混成チームを編成**してプロジェクト研究（戦略型研究）の推進を図る。



想定されるプロジェクト例

①基礎研究型プロジェクトの例

- ・LPSO構造とキンク強化メカニズムの解明 (Mg+Ti)
- ・高強度非平衡Al-Fe系合金の開発 (Al)
- ・高性能のAl-Ti合金とTi-Al合金の開発 (Al+Ti)
- ・高性能のMg-Al合金の開発 (Mg+Al)
- ・異材接合によるマルチ材料化技術の開発 (Al+Mg+Ti)

③地域連携型プロジェクトの例

- ・高熱伝導性を有するMg基射出成形材の開発 (Mg)
- ・エネルギー貯蔵用軽量・高強度Al合金圧力容器の開発 (Al)
- ・溶湯鍛造技術の開発 (Al+Mg)
- ・高熱伝導性Mg-Al-Ca合金の射出成形技術開発 (Mg+Al)

②国際連携型プロジェクトの例

- ・欧州との国際共同研究プロジェクト (Al+Mg+Ti)
- ・ノルウェー科学技術大学との国際共同研究 (Al+Mg)
- ・高性能バイオ材料の開発 (Mg+Ti)
- ・超弾性Ti合金と形状記憶Ti合金の開発 (Ti)

④産業展開型プロジェクトの例

- ・KUMADAI Mg合金の航空機実装化研究 (Mg)
- ・Al合金製の軽量橋梁開発 (Al)
- ・KUMADAI Mg合金の生体吸収性医療機器開発 (Mg)
- ・高性能Ti合金の体内埋込医療機器開発 (Ti)
- ・マルチ材料軽量構造物の開発 (Al+Mg+Ti)

【目的】 大学院共同教育を推進し、軽金属モノづくりの高度人材の育成を図る。



大学院共同教育の内容 ※既存の教育プログラムに加えて

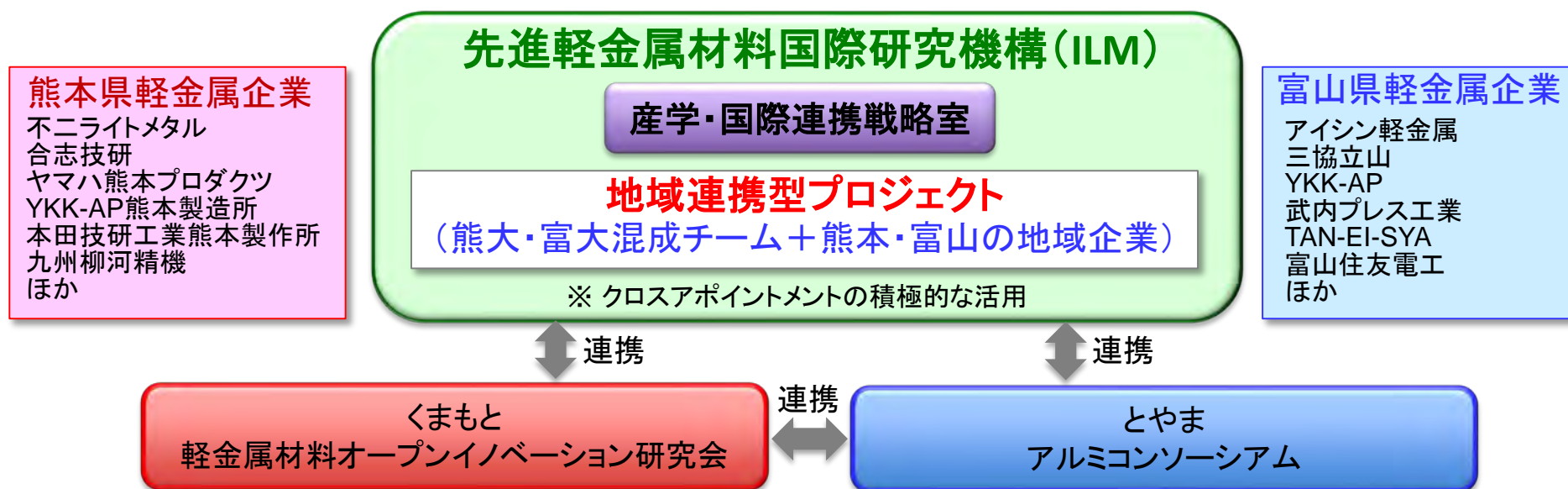
【前期課程】「先進軽金属材料研究者共同養成コース」(2022年度開始)

- ①先進軽金属材料学 ②先進軽金属材料実習 ③先進軽金属材料特別プレゼンテーション
④先進軽金属材料地域インターンシップ(2週間) 【コース修了書の授与】

【後期課程】「先進軽金属材料研究者共同特別養成コース」(2022年度開始)

- ①先進軽金属材料学特論 ②先進軽金属材料特別実習 ③先進軽金属材料国際プレゼンテーション
④先進軽金属材料国際インターンシップ(1~2か月間) 【コース修了書の授与】

【目的】 熊本県と富山県における軽金属材料の技術の高度化と事業化を指向した「**地域連携型プロジェクト**」を推進し、地域の軽金属産業の振興を図る。

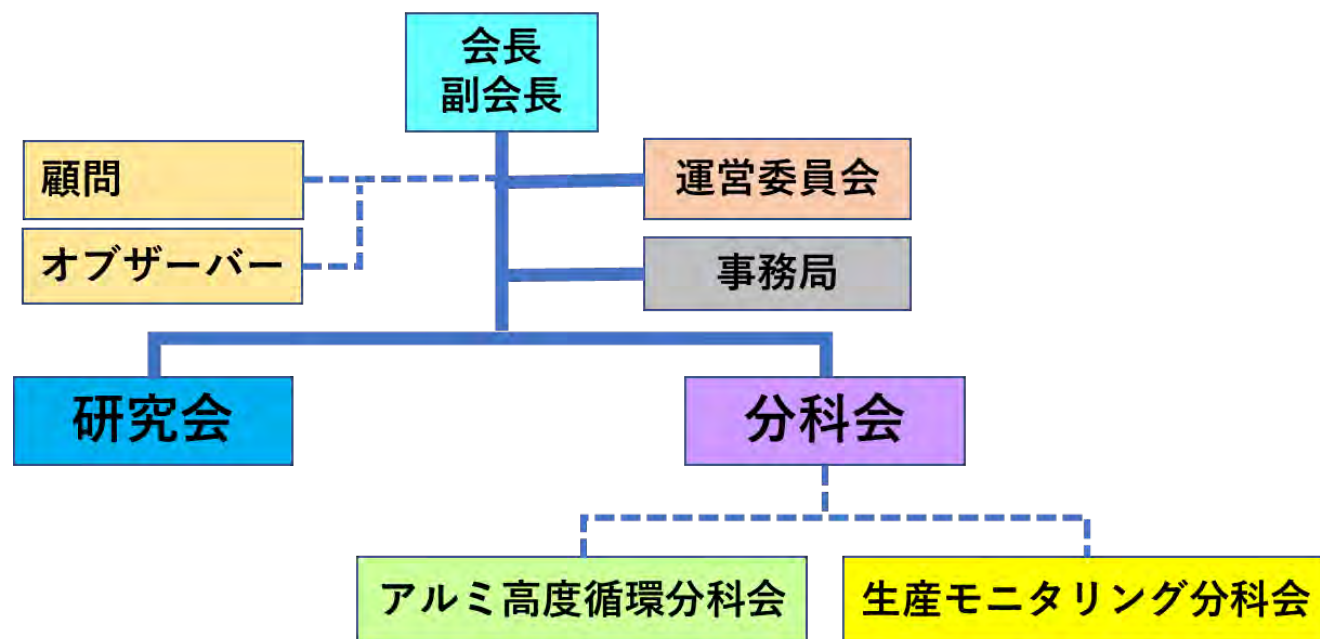


2020年10月2日設立

既に、研究会を5回開催し、主要6社への個別訪問を2ラウンド実施

【目的】 熊本において、オープンイノベーション等による軽金属関連の産業技術の振興及び新技術の創出に関する諸事業を総合的かつ効率的に推進することにより、熊本県の活性化を図り、もって我が国の産業と科学技術の発展に寄与する。

【メンバー】 熊本大学MRC、熊本県企業立地課・産業支援課、県産業技術センター
不二ライトメタル、YKK-AP九州製造所、本田技研工業熊本製作所、
ヤマハ熊本プロダクツ、合志技研工業、九州柳河製作所
その他 MIKI500、県ものづくり工業会、県技術振興協議会



先進軽金属材料国際研究機構（ILM）の開所式

日時： 2021年12月9日（木） 14：00～17：05

場所： ザ・ニューホテル熊本

開所式典：

14：00 受付

14：30 開会の挨拶

①小川学長

②斎藤学長

14：40 来賓の祝辞

15：10 ILMの紹介

15：55 熊本県および富山県における軽金属の取組み

①とやまアルミコンソーシアムの紹介

②くまもと軽金属オープンイノベーション研究会の紹介

16：45 閉会の挨拶

16：50 記念撮影

17：05 終了

先進軽金属材料国際研究機構（ILM）のキックオフシンポジウム

日時： 2021年12月10日（金） 10：00～16：45

場所： 熊本大学工学部百周年記念館

プログラム：

10：00 開会の挨拶

熊本大学 小川学長， 富山大学 齋藤学長

10：20 記念講演

「先進軽金属材料国際研究機構の開設を喜ぶ」 （吉永日出男 九州大学名誉教授）

11：00 特別講演Ⅰ

「The Role of ILM on R&D and Applications of Light Metals in Aerospace」
（D. Shih 熊大MRC、元Boeing R&T）

11：30 特別講演Ⅱ

「九州大学における軽金属研究」 （中島英治 九州大学教授）

13：00 特別講演Ⅲ

「九州工業大学における軽金属研究」 （徳永辰也 九州工業大学准教授）

13：30 特別講演Ⅳ

「ILMの紹介」 （河村能人 ILM 機構長）

「ARCおよび軽金属学会北陸支部活動の紹介」 （柴柳俊哉 ILM副機構長）

「MRCおよび軽金属学会九州支部活動の紹介」 （安藤新二 熊本大MRC）

14：50 軽金属学会九州支部会員企業の紹介等

16：40 閉会の挨拶



ご清聴ありがとうございました。

補足説明資料① 「共同利用・共同研究拠点」について

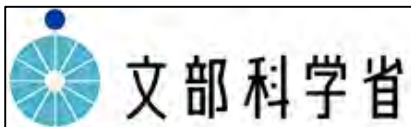
共同利用・共同研究

我が国の学術研究の発展には、個々の大学の枠を越えて大型の研究設備や大量の資料・データ等を全国の研究者が共同で利用したり、共同研究を行う「共同利用・共同研究」のシステムが大きく貢献

従来、国立大学の全国共同利用型の附置研究所等を中心に推進

日本全体の学術研究の更なる発展のためには、国公立大学を問わず大学の研究ポテンシャルを活用し、研究者が共同で研究を行う体制を整備することが重要

共同利用・共同研究体制は、我が国独自の仕組みであり、国際的な研究成果を生み出すとともに、国際的な競争と協調による学術研究の大型プロジェクトを推進するなど、学術研究の発展に大きく貢献



科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会の報告を踏まえ、平成20年7月に学校教育法施行規則を改正し、**国公立大学**を通じたシステムとして、新たに**文部科学大臣による共同利用・共同研究拠点の認定制度を設置**

文部科学省では、国公立大学に附置される研究施設のうち、研究実績、研究水準、研究環境等の面で各研究分野の中核的な施設と認められ、全国の研究者の利用に供することを通じて、我が国の学術研究の進展に特に有益である研究施設を共同利用・共同研究拠点として認定

- 広範な研究分野にわたり、共同利用・共同研究拠点が形成されるなど、我が国の学術研究の基盤強化と新たな学術研究の展開に寄与
- ノーベル賞受賞につながる研究成果の創出など研究水準の向上や、大学の機能強化に貢献

※令和3年3月現在、共同利用・共同研究拠点として53大学（30国立大学、23公私立大学）**100拠点**が認定を受け活動

●完結した材料研究サイクル体制

●マグネ・アルミ・チタン融合研究体制

材料開発から社会実装化に至る一貫通貫の研究体制

不完全な材料研究サイクル



連携

完結した材料研究サイクルの構築

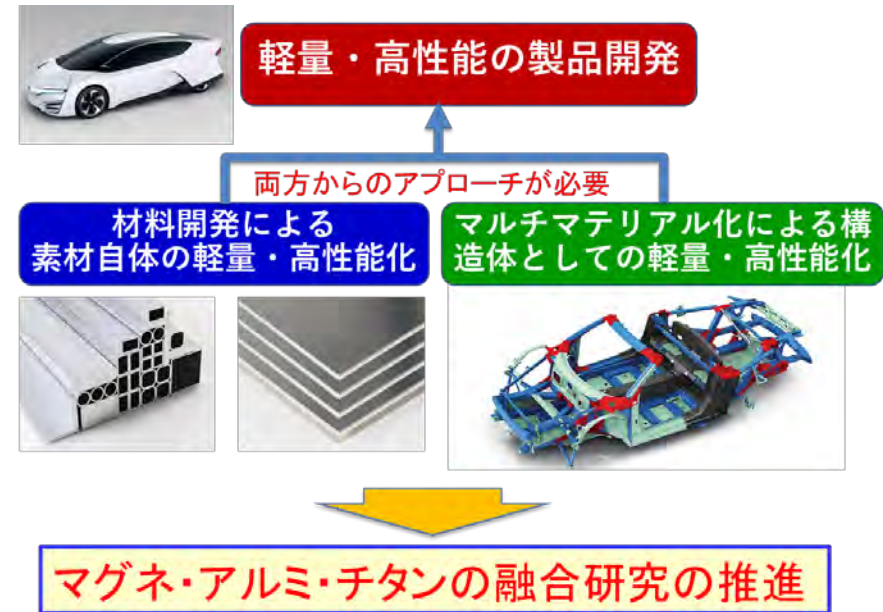


マグネの拠点強化

アルミの拠点強化

チタンの拠点育成

融合研究の推進

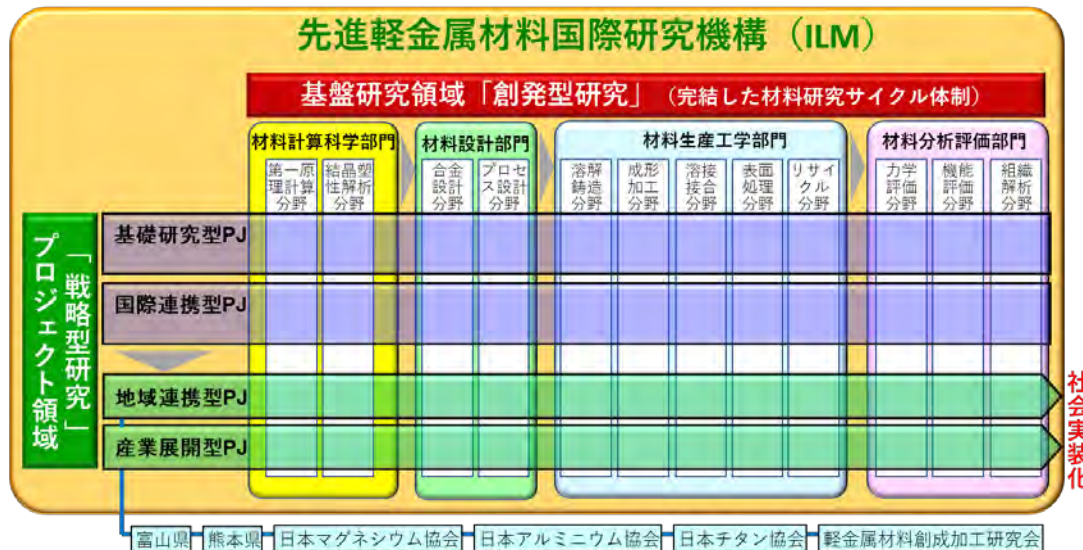


補足説明資料③ ILMの社会貢献

- ①航空宇宙・モビリティ革命の加速
 - ②世界一安全なレジリエンス国家の実現
 - ③誰もが健康で安心と快適さと幸せを実感できるWell-Being社会の実現
 - ④上記三つに必要な軽金属モノづくり高度人材育成の推進
- を図り、日本の科学技術の発展と産業の発展に貢献する。



●研究プロジェクト設置による社会貢献



航空宇宙・モビリティ革命の加速

輸送機器 軽量構造体

= 軽量高強度材料開発 + マルチマテリアル化

電気自動車 航空機 ロケット・宇宙船

世界一安全なレジリエンス国家の実現

橋梁・建築用 軽量構造体

= 軽量高強度材料開発 + マルチマテリアル化

軽量・高強度橋梁 (重量30%減) 軽量・高耐熱性瓦 (1/25の重量)

誰もが健康で安心と快適さと幸せを実感できるWell-Being社会の実現

生体吸収性次世代医療機器

心臓血管用ステント (生体吸収性) 人工関節 (永久残存)

インプラント用高性能医療機器

●軽金属モノづくり高度人材育成

- ①大学院に「軽金属研究者共同養成コース」設置
2022年4月開設(準備中)
- ②全国へのサマースクール・セミナーの提供
- ③地場企業の社員教育用セミナーの提供

1. 実験・計算による革新的「材料設計技術」とDX用「材料製造技術」

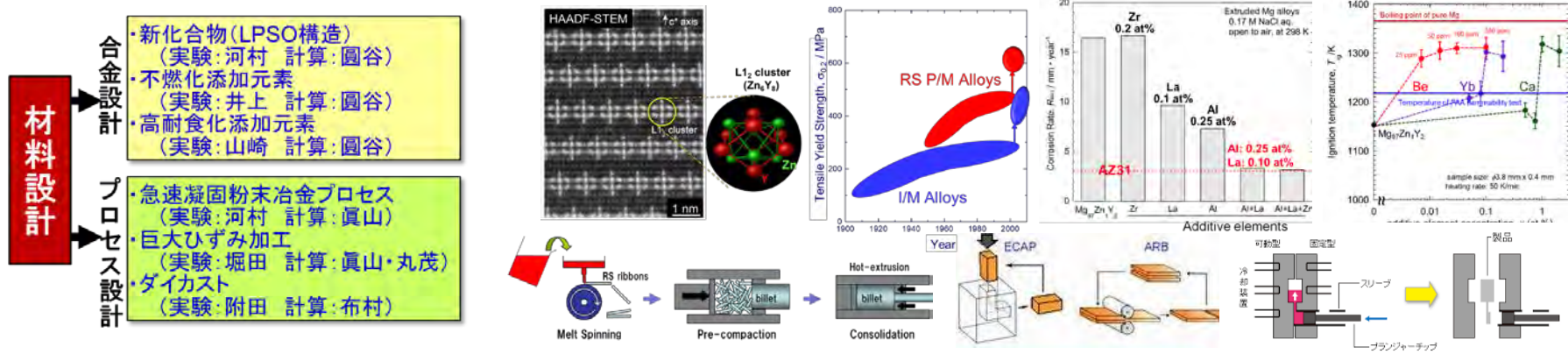
- 実験・観察を通じた革新的材料・機構の創出によるマテリアルDXの高度化
- 高品質データの創出・利活用とプロセスサイエンス構築によるマテリアルDXの促進

(1) 合金設計とプロセス設計による卓越した軽金属の材料設計技術

- ① 新材料創製実績に基づいた「探索実験による材料設計」
- ② マテリアルデータを利活用した「計算・実験の融合による材料設計」

(2) マテリアルDXプラットフォーム構想に貢献できる軽金属材料製造技術

- ① 高品質マテリアルデータ創出のための卓越した材料製造技術(溶解・鑄造・プロセス)
- ② 高品質マテリアルデータ創出の支援のための高品質共通試料の提供技術



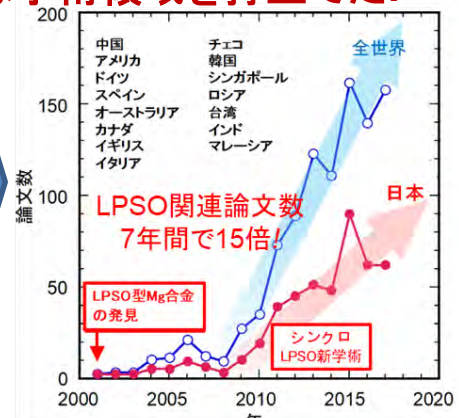
KUMADAI 耐熱マグネシウム合金の開発
 KUMADAI 不燃マグネシウム合金の開発
 KUMADAI 高熱伝導マグネシウム合金の開発

国際規格ISOにKUMADAI 耐熱マグネ合金が追加
 ISO 3116 (2019) Magnesium and magnesium alloys
 - Wrought magnesium and magnesium alloys



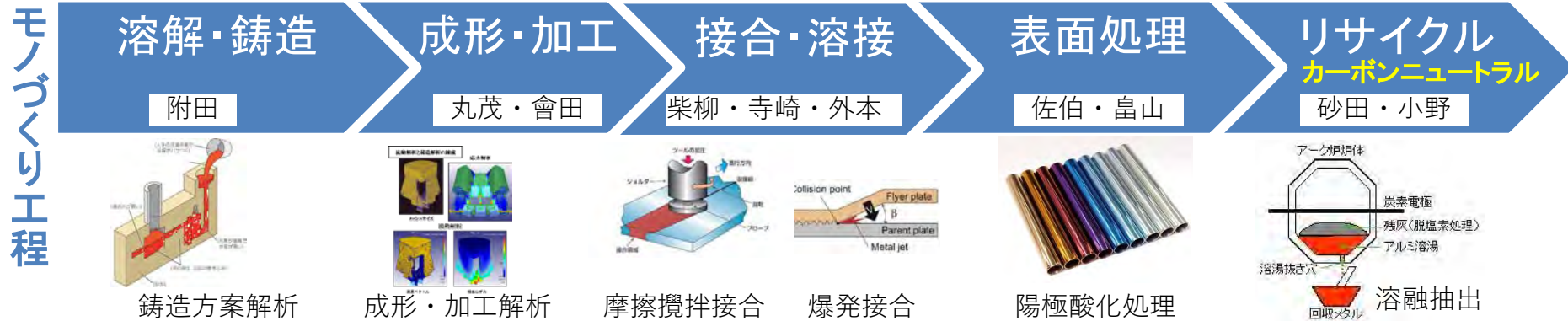
熊大発の新たな学術領域を打立てた!

LPSO/MFS
 の発見
 キンク強化
 の発見



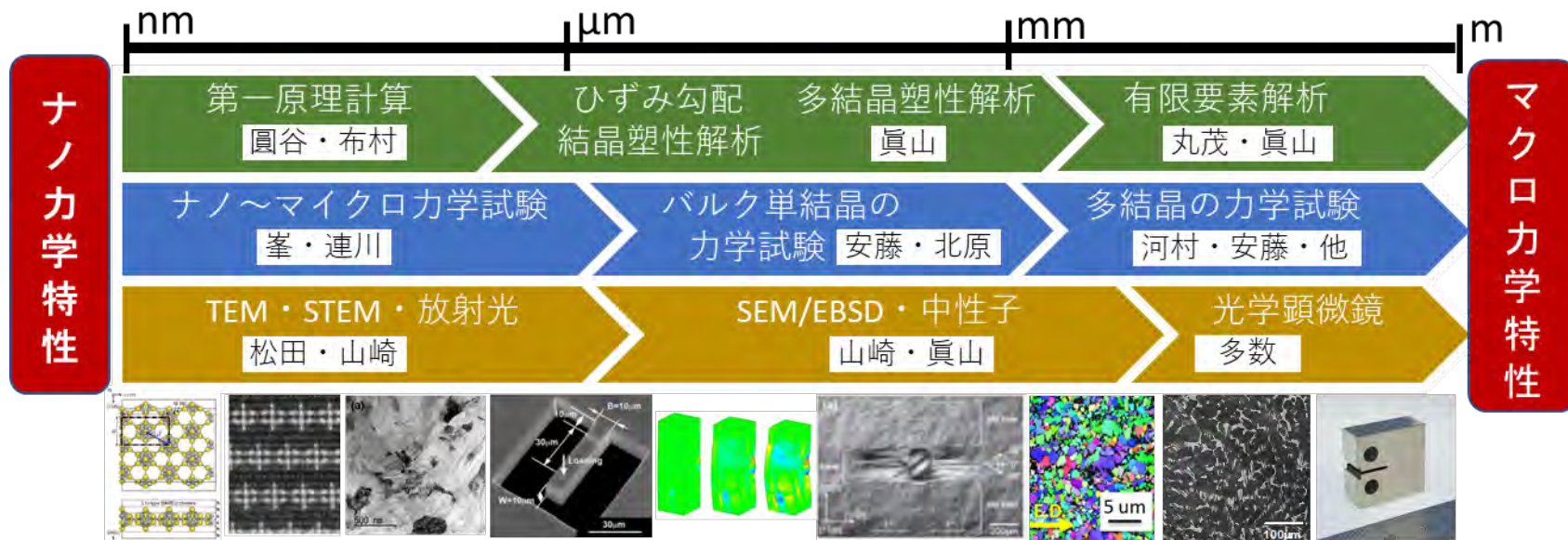
2. 溶解・鋳造からリサイクルに至る「一気通貫のモノづくり技術」

●プロセスサイエンス構築によるマテリアルDXの推進



3. 「実験・計算・観察」の融合によるナノ力学特性をマクロ力学特性に繋ぐ「マルチスケール材料解析技術」

●高品質データの創出・利活用によるマテリアルDXの推進



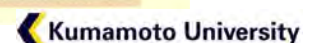
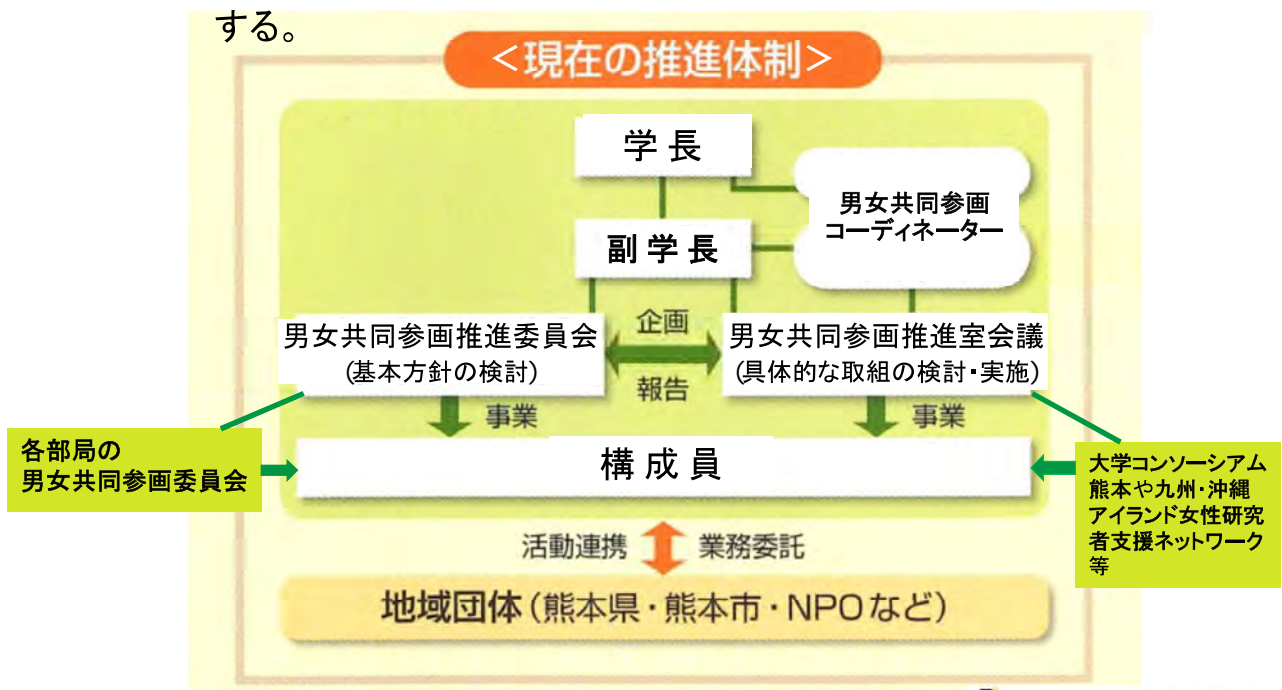
熊本大学における男女共同参画推進の取組み

熊本大学副学長(男女共同参画担当)
前田 ひとみ

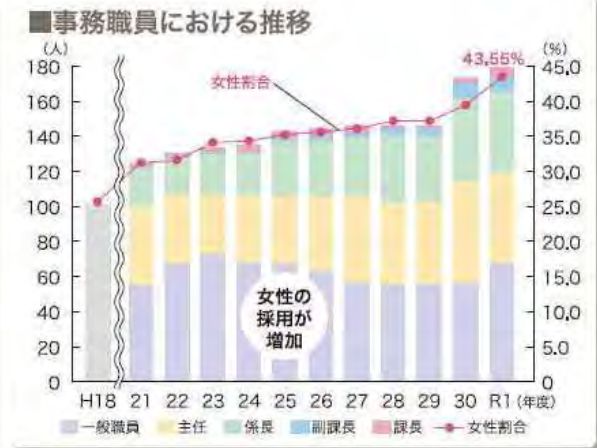
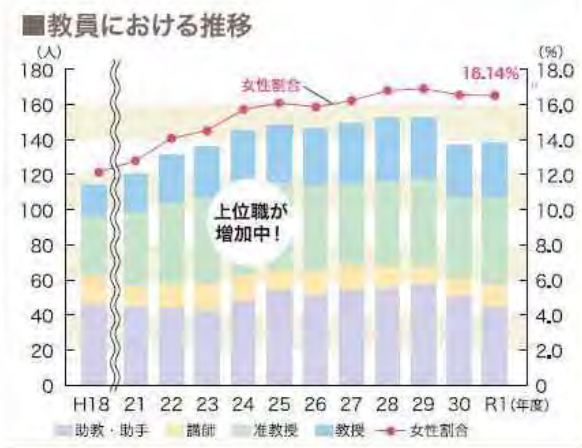


熊本大学における男女共同参画推進のための体制

目的: 男女共同参画社会基本法(平成11年法律第78号)の基本理念にのっとり、国立大学法人熊本大学における男女共同参画を推進する。



熊本大学の女性教員・学生数の推移



※事務職員のグラフは相当職で表示しています

<女性教員の割合>

H18	114名	(12.2%)
H26	147名	(15.9%)
R 3	139名	(17.1%)

<女性教授の割合>

H18	17名	(4.9%)
H26	33名	(10.1%)
R 3	31名	(10.8%)

<女子院生(博士)>

H18	149名	(22.0%)
H26	211名	(28.9%)
R 3	204名	(32.0%)

(データは各年度5月1日現在)



熊本大学における男女共同参画推進のための取組

第2期国立大学法人熊本大学男女共同参画推進基本計画に基づいた項目

- 研究者雇用事業
- 託児事業
- 病児保育事業
- 保育園の運営
- 医療的ケア児の通園への支援
- 介護サービスコーディネート事業
- 留学生・外国人教員の育児支援
- 相談窓口
- 女性研究者の研究再開支援
- 女性研究者の共同研究支援
- 女性研究者賞表彰
- 女性研究者等の交流会
- 男女共同参画推進フォーラム
- 女性研究者等の交流会
- 女子中高生の啓発事業
- ジェンダー関連科目の開講
- 大学コンソーシアムとの連携
- 九州・沖縄アイランド女性研究者支援ネットワークとの連携

①子育てと仕事の両立支援

- ・大学直営こぼと保育園 ・大学病院院内保育所
- ・病児保育室Mimi
- ・病児保育事業：保護者75名/子ども105名
小学校就学前の子どもで指定の施設を利用した場合、子ども1人につき3回まで、利用料を支援
- ・託児ルーム：ワークスペースとキッズスペースを完備
 - ・個人利用の他、祝日授業日や大学入学試験の託児等、また授乳や妊娠中の休憩スペースとして利用
 - ・本学で開催される学会等へ託児用備品の貸し出し
 - ・男女共同参画推進の一環として行っているランチ会(育児・介護情報交換会)の開催場所として利用



②仕事と生活の充実を応援



よかボス宣言



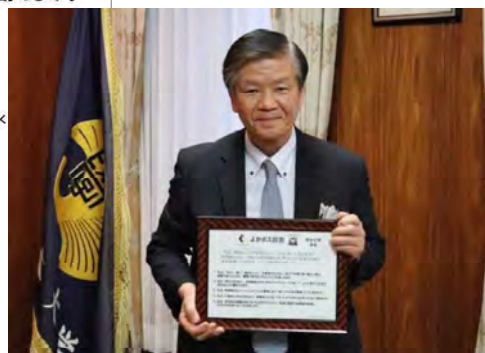
熊本大学
学長

私は、幸せな人生が実現するよう、自ら仕事と生活の充実に取り組むとともに、熊本大学教職員の仕事と生活の充実を応援し、大学全体に広げるため、以下の事項を約束します。

1. 私は、「仲よく、楽しく、働きましょう。」を実現するために、全力で仕事に取り組んだ後は、家族や友人とともに、健康で幸せなくまもとライフを楽しみます。
2. 私は、男女の区別なく、全教職員がそれぞれのライフステージにおいて、より心豊かな生活を送れるように働きかけます。
3. 私は、教職員同士が“one team”となり尊重し合う、思いやりのある職場づくりに努めます。
4. 私は、計画的に休みを取るなど、教職員が工夫してオンとオフのメリハリをつけるよう勧めます。
5. 私は、学内及び地域社会におけるよきモデルとなり、多様な資質や価値観を尊重し、次世代を育成することを目指します。

くらしまわせく

学内によかボスが急増中！



③学術分野における男女共同参画の推進

・研究補助者雇用事業:12名

研究者の性別に関係なく、育児・介護により研究が遅滞・中断しないよう、研究補助者を雇用

・共同研究支援事業:3名

本学と熊本県内企業等で行われている有用な共同研究で、グループ内に女性研究者を含む研究に対する研究費支援

・研究活動再開支援事業:5名

育休・産休・介護休業のため研究活動を離れ、復帰した女性研究者の研究活動再開に対する支援

旅費支援1名、論文掲載料・英文校閲料支援4名

・女性研究者賞表彰

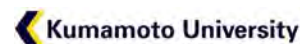
優れた研究成果を挙げた女性研究者を表彰

・女性研究者奨励賞表彰

将来性のある若手女性研究者を表彰



令和2年度 女性研究者奨励賞
豊田 真子特任助教
(ヒトレトロウイルス学共同センター)



「女性研究者賞」・「女性研究者奨励賞」の候補者募集

The Kumamoto University
Female Researcher Awards

Female Researcher Award
Young Female Researcher Award

FY2021
the 6th

熊本大学は、優れた研究成果を挙げた女性研究者および将来性のある若手女性研究者を表彰することにより、女性研究者の現なる活躍を支援するとともに、学術分野における男女共同参画推進に資することを目的として「女性研究者賞表彰」および「女性研究者奨励賞表彰」を創設しました。

令和3年度
「熊本大学女性研究者賞表彰」及び
「熊本大学女性研究者奨励賞表彰」募集

応募締切 令和3年12月24日(金)

対象者 「熊本大学女性研究者賞」
「熊本大学女性研究者奨励賞」 賞状及び副賞として記念品を授与します

対象者 熊本県内の高等学校教員、公務員および企業等に就労する女性研究者(40歳以下)

応募条件 【女性研究者賞表彰】極めて顕著な研究成果を有し、ロールモデルとして奨励するにふさわしい人物と認定を受ける方
【女性研究者奨励賞表彰】性別40歳以下の中で、過去3年以内の研究活動において顕著な功績を有し、将来性が期待できる方

応募方法 応募要項などの詳細については、熊本大学男女共同参画推進部のHPからダウンロードしてください。
<http://gender.kumamoto-u.ac.jp/index.html>

問い合わせ 総務課 総務課長 熊本大学男女共同参画推進部
〒960-8655 熊本県中区東黒瀬2丁目10番1号
TEL & FAX: 096-342-2281
E-mail: gender@kumamoto-u.ac.jp

熊本大学 Kumamoto University



熊本大学の特別表彰制度について

熊本大学では、顕著な功績又は模範として推奨するにふさわしい活動、業績があった職員、グループを表彰し、その努力に報いるとともに、当該活動、業績の成果を学内に公表することにより、本学の発展及び活性化、効率的な運営の推進を図ることを目的として、特別表彰を実施しています。令和3年度の特別表彰の対象となる活動、業績は以下のとおりです。

1. 教育活動表彰

- 学部・大学院における講義、演習、実験、実習、研究指導、教材開発、教育プログラムの開発、課外活動における学生指導その他優れた人材を育成するための取組。
- 附属学校における授業、教育プログラムの開発、進路指導、生徒指導、教科指導、教育実習指導、課外活動における児童・生徒指導、地域の学校等との協力、保育、特別支援教育その他優れた人材を育成するための取組。

○令和3年度教育活動表彰

グランプリ 1件 教育学部附属特別支援学校

取組名称：コロナ禍における児童生徒の学びと生活を支えた「附特遠隔教育推進プロジェクトチーム」

ほか、準グランプリ 2件、入賞 7件、奨励賞 1件を表彰

2. 研究業績表彰

論文等の研究活動に基づいた成果。

選考方法は、人文社会科学系、自然科学系及び生命科学系からそれぞれ1名以上選出。

○令和3年度研究業績表彰

人文社会科学系 2名、自然科学系 2名、生命科学系 2名を表彰

3. 医療活動表彰

病院における診療、先端医療開発、臨床教育、患者サービス、病院経営その他医療に関する取組。

○令和3年度医療活動表彰

「令和2年7月豪雨災害およびCOVID-19クラスターに対する熊本大学病院DMATの支援活動」ほか2件、合計3件を表彰

4. 業務改善表彰

本学の管理運営面における業務の効率化及び合理化に関する取組。

○令和3年度業務改善表彰

グランプリ 1件 事業名称：廃プラスチック容器の実験廃液貯留容器への再利用

ほか、準グランプリ 2件、特別賞 1件を表彰

コロナ禍における児童生徒の学びと生活を支えた 「附特遠隔教育推進プロジェクトチーム」



本校H.Pはこちら



熊本大学教育学部附属特別支援学校

教諭 多田 肇



熊本大学教育学部附属特別支援学校

小学部17名 中学部18名 高等部25名 計60名

附属学校としての使命・役割

- 1 先導的・実践的な研究の推進と地域の教育力向上への貢献
- 2 質の高い教育実習提供など学部学生の実践力向上
- 3 教育学部との研究・研修協力や共同研究の推進

F 「ふれあい」 家族 友だち 先生 地域の人々 社会などと「ふれあい」

T 「つながり」 学校 保護者 地域 関係機関 社会などが「つながり」

K 「かなえる」 子どもたちの「夢・希望」を「かなえる」学校



新型コロナウイルスの流行
2020年2月27日
緊急事態宣言による臨時休校要請

3



2020年春 臨時休校中に撮影

私たちに何ができるのか

4

2020年3月 試行的なオンラインでの朝の会



試行錯誤の過程を職員研修として実施

附特遠隔教育推進プロジェクトチームの発足

チーフ(1名)

- ・ 全体掌握
- ・ プロジェクト会計画
- ・ 研修計画

学部職員(3名)

- ・ 先行的実践
- ・ 研修講師
- ・ 機材等調整

学部主事(3名)

- ・ 学部取組の舵取り
- ・ 学部間情報共有

5

校内中のiPadを集めて職員に配布



職員のICT活用スキルの向上を図る

6

附特遠隔教育推進プロジェクトチームの主な取組



朝の会、集会、ミニ授業



児童生徒向けの学習動画配信



職員研修及びその活用

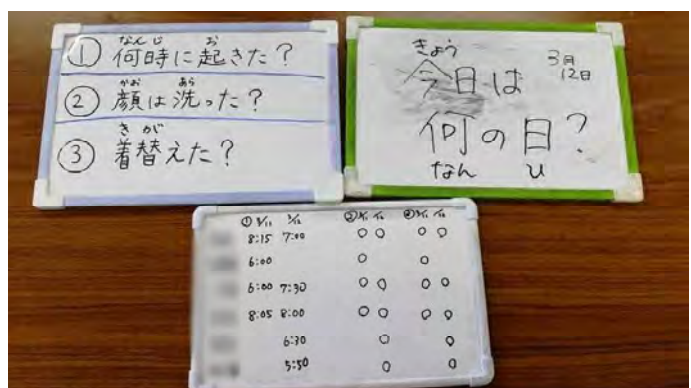
7



朝の会

目的

- ◇生活リズムを保つこと
- ◇生活に見通しを持たせること



ホワイトボードを活用
同じことを同じ時間に リズム作り



8



学部集会



3日目 「やさいなえうえ 実況生中継」 ～宿題～

- ・野菜の育つ動画を見る。
- ・1日目の「やさいクイズ」で取り扱えなかった枝豆の花の色を保護者と一緒に調べる。
- ・4日目に発表



少しずつ学習保障



2020年4月16日開発
 限定公開URL一覧ページ ログイン構造 ID+PW入力



YouTube 公開/限定公開

くまもとだいがくきょういくながふ
 熊本大学教育学部
 附属特別支援学校
 ふぞくとくべつしえんがっこう
 Special Support School Attached to the Faculty of Education, Kumamoto University
 公式YouTubeチャンネル

091046 番目にご覧いただき、ありがとうございます。

Windows セキュリティ
 Microsoft Edge
 サーバーがユーザー名とパスワードを要求しています。
 サーバーからの報告:
 ユーザー名
 パスワード
 OK キャンセル

ホーム 学校紹介 学校全図 研究
 最新情報



学校内の様子

地域の方から教わった
折り紙コマの折り方

児童生徒にお馴染みのFTKロック

保健体育科の授業

一般公開

限定公開



教室のメダカ

算数科の授業

先生の紹介

家庭科の授業

10本

34本

学校の先生登場 生活のリズム ミッション 学校の日常

11



遠プロの先行実践



2020年3月5日 熊大・菊池先生と研究について
(Zoom × ロイノート・スクール)

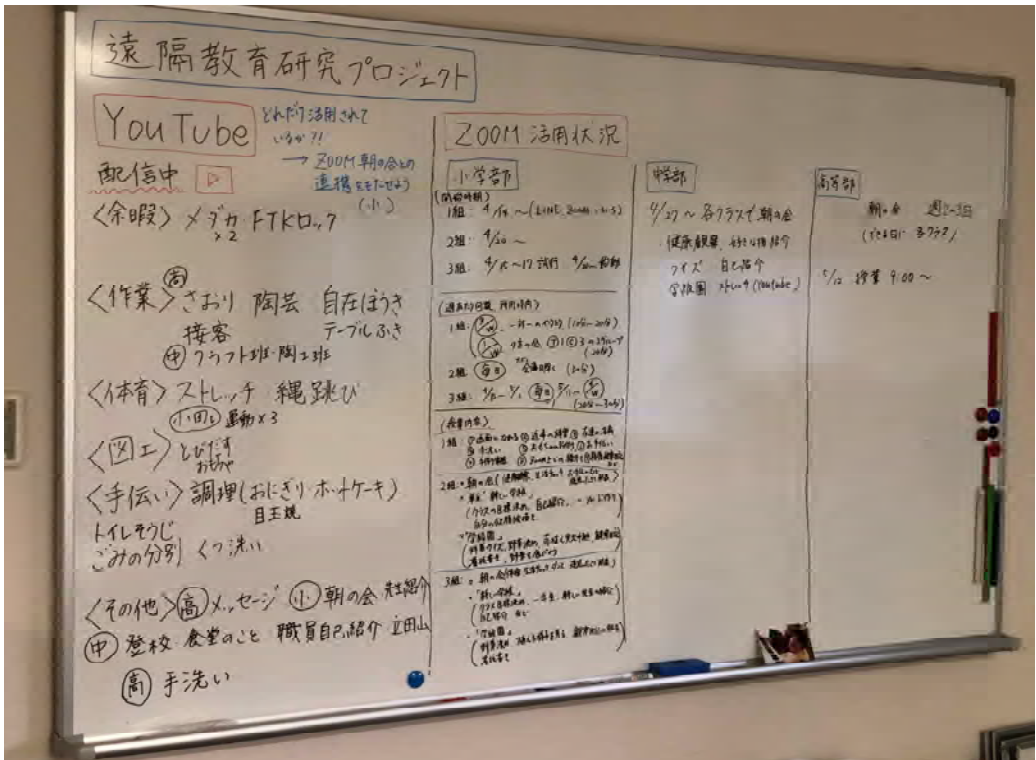
職員研修

- カメラ: 写真に撮ってカードにする
- テキスト: 文字入力
- Web: Webページをカードにする
- 地図: 地図をカードにする
- 資料箱: PDFなどを保管
- 提出箱: 提出期限等の設定
- 送る: 先生や生徒間での送受信

学校再開後の教育活動に大きく貢献

臨時休校中

遠隔教育推進プロジェクト定期会



職員室で共有

臨時休校中



新型コロナウイルス感染症の拡大がきっかけでICT活用が加速化



使う中でICTの便利さや可能性が見えてきた





2020.6
学校再開



学校再開

ソーシャルディスタンスを保つためZoomを活用



オンライン始業式



オンライン外部講師



校内でオンライン授業

学校再開

ソーシャルディスタンスを保つためZoomを活用



文化祭でオンライン接客



いらっしゃいませ〜



文化祭で他学部の発表をオンライン視聴



ICTの活用が、授業の形の選択肢の一つに。

教員のスキルが次第にアップ **使えば上がる!**¹⁷

学校再開



授業づくりに変化

新聞のQRコードを自分で読み込んで好きなサッカーチームの動画を見る



自分の伝えたいことを画像や動画で友達に



書写は難しいが発音の明瞭さを生かして文字を音声入力

学校再開



書写アプリ



自分の描いた絵が
世界中でシェア
ブラウザボミングホーム



プログラミング教育



教材を拡大し、見え方を支援

ICT活用で拓く未来

学校再開

保護者向け 情報研修会



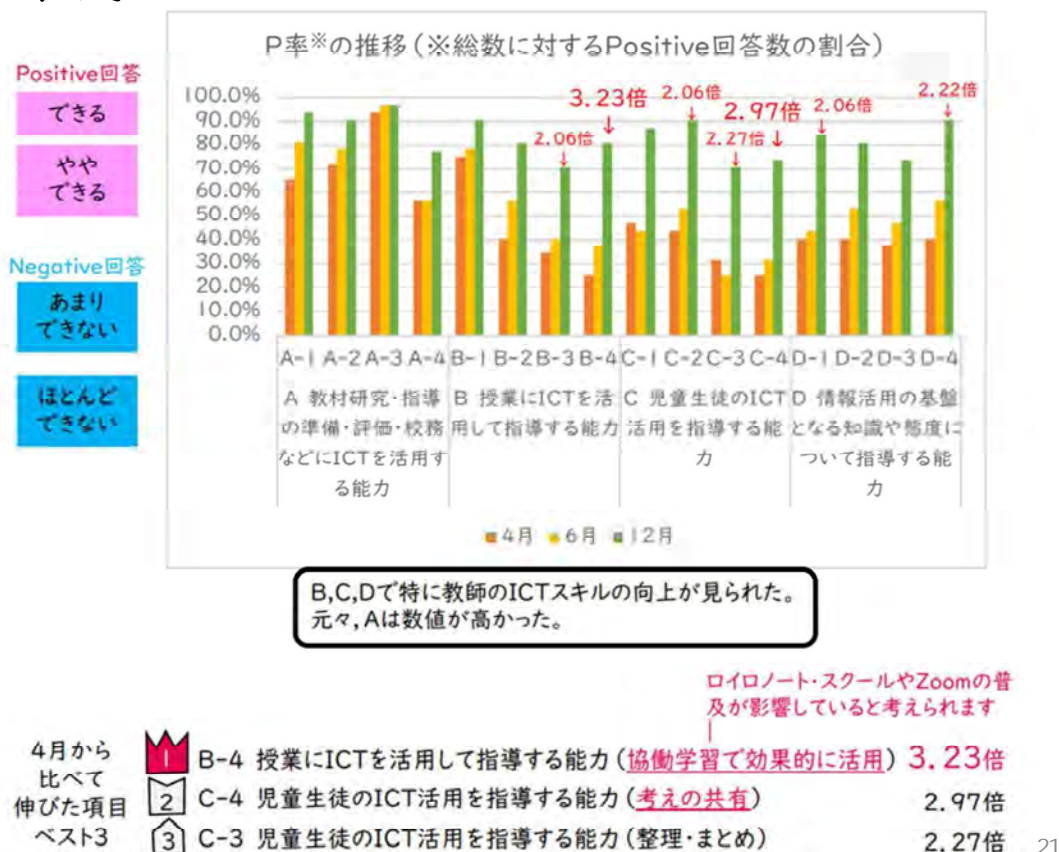
体験的な研修会

親子 情報研修会



ロイロノートの基本的な
使い方の研修会

ICT活用チェックリスト



附特遠隔教育推進プロジェクトチーム

- ◇児童生徒の学びと生活を支える
- ◇教師のICT活用スキルの向上

◇保護者の協力と連携

家庭での機器等準備 ICT研修会 学習成果の共有

◇大学の協力と連携

ZoomIDの付与 iPad等機器類の整備 教科指導への助言

令和の日本型学校教育

個別最適な学び 協働的な学びの実現

地域の教育力向上

プレスリリース一覧（10月分 研究・イベント関係）

番号	部局等名	代表者名（担当名） 及び職名	件名	リリース日	備考
1	大学院先端科学研究部	大山 順也 准教授	燃料電池の非白金化に繋がる新物質を開発 －酸性電解質中でも安定な十四員環鉄錯体による代替触媒を実現－	2021.10.4	共同リリース 代表：東京工業大 学
2	大学院教育教育学研究科	塚本 光夫 教授	熊本大学教職大学院情報教育研修会が2021年デジタル社会推進賞「銀賞」を受賞	2021.10.11	
3	大学院生命科学研究部	中條 岳志 助教	HIVは宿主（ヒト）のRNA修飾を悪用して感染・増殖する －新しい戦略の抗ウイルス薬の開発に期待－	2021.10.12	共同リリース 代表：熊本大学
4	大学院生命科学研究部	藤末 昂一郎 助教 辻田 賢一 教授	ローヤゼリーが血管内皮機能を改善する効果を検証 －動脈硬化予防に期待－	2021.10.12	共同リリース 代表：熊本大学
5	産業ナノマテリアル研究所	浪平 隆男 准教授	第23回ジャパン・インターナショナル・シニア・フォーラムに共同出展いたします	2021.10.15	共同リリース 代表：熊本大学
6	先進マグネシウム 国際研究センター	河村 能人 教授	国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の戦略的国際共同研究プログラム「日本-ヴィンチプロジェクト4が国共同研究」に採択されました！	2021.10.18	
7	教育研究支援部 自然科学系事務課	－	「夢科学探検2021」のオンライン開催について	2021.10.18	
8	永青文庫研究センター	今村 直樹 准教授	アメリカでの熊本洋学校の教師人選に関する一次史料を発見	2021.10.19	10.26 Zoom会见
9	大学院先端科学研究部	速水 真也 教授	酸化グラフェンによる新型コロナウイルスの抑制 －炭素材料からなる抗ウイルス製品開発に期待－	2021.10.19	10.26 Zoom会见
10	総務部総務課	－	熊本大学×ニューコ・ワン共同企画「変わりゆく魔女とシェイクスピア」展開催のお知らせ	2021.10.20	
11	大学院生命科学研究部	三隅 将吾 教授	セチルピリジニウム塩化物水和物（CPC）の新型コロナウイルス不活化作用を確認	2021.10.25	共同リリース 代表：大正製薬

12	大学院先端機構/ 大学院生命科学研究所	三浦 恭子 准教授	最長寿命げっ歯類ハダカデバネズミから神経幹細胞の単離と培養に成功 — 脳の老化やがんを防ぐ方法の開発に貢献—	2021.10.25	共同リリース 代表：熊本大学
13	学生支援部学生生活課	—	熊本大学学内食料等支援について	2021.10.27	
14	生命科学系事務部 医薬保健学系事務課	—	熊本大学医学部創立120周年記念事業 昔寿メモリアル収蔵庫完成記念講演 会	2021.10.27	